

## 1 今年度の取組みと自己評価

### (1) 教育活動への取組みと自己評価

#### ① 学習指導

##### <目標と方策>

- ・学習習慣の定着及び授業規律の確保を図り、基礎学力を身につける。
- ・年間指導計画、週ごとの指導計画に基づき、教材を工夫し、計画的に授業を実践する。
- ・一人一台端末をはじめ、ICT機器、TeamsやForms等を活用した教育実践を推進する。
- ・学習指導要領の意義を踏まえ、生徒の実態等に即した指導内容・方法の改善を図る。特に、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習などアクティブラーニングの視点から授業改善を図る。
- ・外部諸機関とも連携を図りながら、「人間と社会」や学校設定科目である「多文化理解」及び「市民科」を通して、自由と責任、権利と義務、個人と社会、人権と共生など市民として身につけておくべき意識、公共心等、社会人としての基礎を育成する。
- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から臨時休業した際や登校できない生徒の授業を確保するため、インターネット等を活用した教育活動（オンライン授業等）の推進を図る

##### <取組と自己評価>

- ・日本語の習得や中学校での学力定着が十分でない多様な生徒が在籍している。個々の学力を把握しながら基礎・基本の学習を重視して授業の実践に取り組んだ。学校評価アンケートでは「教職員は熱心に指導していると思う」の質問に対して肯定的（よく当てはまる・やや当てはまる）に回答した生徒は85%（昨年95%）と減少した。一方「教員は基礎・基本をわかりやすく教えてくれている」に質問に対して、肯定的に回答した生徒は97%（昨年89%）で増加した。生徒の多くは基礎・基本の定着を図ろうとする授業内容や指導を認めている。（評価A）
- ・外国につながる生徒の日本語能力検定受験に向けて、有資格者（日本語教師）による放課後日本語指導を引き続き強化し、通年で週3回実施し、日本語能力試験受験の促進に大きく寄与した。（評価A）
- ・学校評価アンケート「生徒はまじめに授業を受けている」に肯定的に答えた生徒は68%（昨年82%）と大きく低下した。教員と生徒とが協力して授業規律を向上する必要がある。（評価C）
- ・生徒の興味を引くような授業方法やICT機器の利用、板書やプリントの漢字へのルビ振りなど、指導内容の改善を継続している。評価アンケートでは、「授業を工夫している先生が多いと思う」に肯定的に回答した生徒は88%（昨年87%）であった（評価A）
- ・東京都教育委員会の「職業的自立支援教育プログラム」を積極的に活用し、1、2学期の総合的な探求の時間や市民科の授業において様々な形で外部人材の活用を促進して、教育活動を行うことができた。（評価A）
- ・感染症等による休校により登校できない際も、オンラインでの学習を継続できるように、オンライン学習デーを年間行事計画に1日設定し、オンラインでの授業を体験した。（評価B）

#### ② 生活指導

##### <目標と方策>

- ・あいさつの励行、言葉遣いや遅刻の指導、授業規律の確保、いじめ、喫煙防止、上履き指導、SNSの適切な利用ルール等の指導等により、学ぶ者としての基本的な態度を育てる。
- ・ホームルームや班活動（部活動）を通して、学校や社会のルール・マナーを遵守する態度を育成する。
- ・全教員による校内巡回体制を充実させ、生徒が安心して学べる、安全で、落ち着いた学習環境を確保する。
- ・生徒支援委員会を中心に外部諸機関との連携を保ちながら、特別支援教育を推進する。
- ・生徒の問題行動等への対応において、保護者、地域住民、関係機関と連携・協力できるサポート体制（学校サポートチーム）を確立し、生徒の健全育成を図る。
- ・体罰の根絶やいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて学年を超えた連絡体制を構築するとともにし、スクールカウンセラーを活用し、生徒一人一人の心の健康に対応できる相談体制を確立する。

##### <取組と自己評価>

- ・毎日の登校指導などを通じて、日常的に規範意識の向上を目指して指導を継続してきた。評価アンケートでは、「生徒指導はしっかりしていると思う」に肯定的に回答した生徒は95%（昨年89%）と上昇した。今年度特別指導の件数は0件（昨年5件）であった。（評価B）

- ・校内巡回及び給食時の立ち番は継続的に実施しており、安全で落ち着いた学習環境を確保している。また、集会などにおいても、生徒の聞く態度は良好である。（評価A）
- ・学校運営連絡協議会の開催と合わせて、サポート会議を開催し、学校の状況を関係機関と共有した。スクールサポーター（地域警察署）との連携や、保護者、地域住民との協力体制の確立への第一歩となった。（評価B）

### ③ 進路指導

#### <目標と方策>

- ・系統的、計画的なキャリアガイダンスを充実させ、できるだけ早い時期から進路を考えさせる。
- ・個別指導などを通して、生徒一人一人に「将来自分は何をしたいか」を考えさせ、自己の適性を生かす就労指導にあたる。
- ・ハローワークなどの関係機関と連携して進路説明会を計画的に実施し、進路に関する情報を積極的に提供することで、生徒の進路意識を高める。
- ・系統的、計画的なキャリアガイダンスを充実させ、できるだけ早い時期から進路を考えさせる。
- ・個別指導などを通して、生徒一人一人に「将来自分は何をしたいか」を考えさせ、自己の適性を生かす就労指導にあたる。

#### <取組と自己評価>

- ・進路指導部を中心に入学時から計画的にキャリア教育の推進を進めてきた。厚生労働省のキャリア教育アプリ「JOB TAG」を利用した適職診断等により進路意識を高めた。また、卒業生や同窓生による進路体験発表会や全学年対象にしたハローワーク品川職員による進路教室等を開催した。
- ・進路計画に沿って、4年生では個人面談等を繰り返し行い、進路意識を高める努力をしている。さらに、ホームルームや総合的な探究の時間においても進路を意識して指導を継続させ、進路決定率は昨年度と同様の80%であった。（評価B）

### ④ 特別活動

#### <目標と方策>

- ・人間関係を育てるため、班活動（部活動）や学校行事を活性化し、生徒の学校への帰属意識を醸成する。
- ・教員による指導体制を確立し、班活動（部活動）への参加を奨励して自主的態度の育成を図るとともに学校生活に対する満足感を高める。
- ・体罰や行き過ぎた不適切な指導はあってはならない。健康で安全な活動ができるよう、教職員はもとより、生徒・保護者に向けても体罰根絶への意識を高める。

#### <取組と自己評価>

- ・感染予防対策を施して、星霜祭（文化祭）や球技大会、スポーツ大会、さらには遠足を実施できたことは人間関係形成の上で非常に有意義であった。（評価A）
- ・班活動では、複数の班で活動する生徒も多いが、入班率が64%（昨年61%）と減少した。誰でも体を動かしたいときに動かしたり、文化的な活動に参加できたりする環境整備を進める。
- ・バスケットボール班は東京都高等学校体育連盟主催の春季大会及び秋季大会いずれにも参加し、秋季大会では1回戦を突破した。
- ・野球班は他校との合同チームでの春季大会、秋季大会ともに予選リーグ敗退した。
- ・水泳班1名が夏季大会に参加した。
- ・文化班においては、定通芸術祭 写真部門において写真班から銀賞1名、銅賞3名計4人が入賞を果たした。
- ・教員の体罰根絶など人権尊重意識を高め、今後も教職員・生徒・保護者に向けて継続的に啓発活動に取り組む。

### ⑤ 健康づくり

#### <目標と方策>

- ・生徒の生活習慣や心の健康問題等について、校医・関係機関と保健室・学年等の連携を図るとともにスクールカウンセラーを有効活用する。特に、心の健康に対応できる相談体制を確立するとともに関係法令に基づき生命尊重に資する教育を推進する。
- ・本校生徒の健康上の課題に対応した保健計画のもと、健康観察・健康相談を充実させ、生徒自ら健康について考え行動できるようにする。特に、新型コロナウイルス感染症予防対策を推進する。
- ・定期検診、教育相談、セーフティ教室、普通救急救命講習会、がん講習、給食指導、食育等を通して、自己の健康の保持・増進を図る。
- ・荏原消防署（小山出張所）、地域自治会等と連携して行う地域防災訓練を通して、自助・共助の精神と技能を高める。

### ＜取組みと自己評価＞

- ・生徒支援委員会で、スクールカウンセラーと緊密な連携を図りながら、定期的に生徒情報交換会を行い生徒の個別状況を職員で共有するとともに、必要に応じてユースソーシャルワーカーを要請し、課題解決にあたった。（評価A）
- ・今年度のスクールカウンセラーの相談件数は計 件であり、昨年度（240件）より増加した。担任や保健室を中心に生徒の状況を把握して随時カウンセラーにつなぎ、心身の健康維持のために相談体制を強化している。（評価A）
- ・鳥取短期大学准教授を食育の講師として招聘し、思春期の食についての食育講演会を行い、生徒の食について考える機会を設けた。（評価B）

## ⑥ 人権教育の推進

### ＜目標と方策＞

- ・保護者、関係機関等と連携し、生徒の人権意識を高める講演会を実施するなど、地域や外部人材を活用した特色ある教育活動を展開する。
- ・地域や関係機関と連携し、国語の取り出しによる日本語の指導や放課後の日本語能力検定に向けた講習等、外国につながる生徒への日本語支援や進路保障等の取組を充実させる。

### ＜取組と自己評価＞

- ・外国籍生徒の就学・就労問題、在留資格等の法令に関わる専門的な知識を要する案件や、個別の生徒相談について、外部機関と連携することでできた。
- ・ビデオ教材等を有効に活用し「人権教室」を3回実施し、生徒の人権意識の向上に努めた。（評価A）

## ⑦ 学校経営・組織体制

### ＜目標と方策＞

- ・企画調整会議を中心に、組織的・機能的な学校運営を図る。
- ・学校運営連絡協議会での外部意見や学校評価等を分析・検討し、外部からの視点も十分取り入れて学校経営にあたる。
- ・整理整頓とクリーンデスクの徹底を図り、見通しの良い職場環境を実現することにより、個人情報紛失事故を未然に防止するとともに教育・職場環境の整備を図る。
- ・「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、各種会議等の短縮や公務の改善を図り、夏季休暇5日、年次有給休暇15日以上を取得するなど、健全なライフワーク・バランスを推進する。特に、企画調整会議や職員会議等は時間短縮（1時間以内）する工夫を行う。

### ＜取組と自己評価＞

- ・企画調整会議を中心に各分掌の業務をバランスよく調整して、毎日の全員打合せで連携を深めることができた（評価B）
- ・学校運営連絡協議会ではいつも活発なご意見をいただいている。こうした意見を参考にしつつ学校改善が図れている。（評価B）
- ・教育活動について経営企画室職員と教員の連携は良好であり、事務処理は概ね円滑に行われている。センター執行率は大幅に改善し約100%である（昨年99%）。（評価A）
- ・夏季休暇5日を全員が取得した。年次有給休暇15日以上取得したものは4人であった。（評価A）

## ⑧ 経営企画室

### ＜目標と方策＞

- ・教員と連携・協力しながら、経営企画室の学校経営への参画と事務処理の円滑化を図る。
- ・行政視点をもって取り組み、教員に対して課題等があれば問題点を指摘する。また、経営企画室に関しては、具体的な事務の効率化を図る。
- ・生徒、保護者、都民にとっての学校の最初の窓口として、接遇マナーの向上を図り、丁寧に対応する。
- ・学校行事や保護者会活動に積極的に参加する。
- ・校長が作成する学校予算編成指針に沿って、教員と連携を図り、学校教育目標達成に向けた予算編成を行う。
- ・学校徴収金の管理等を適切に行うとともに、予算の有効活用を図るために、計画的に予算を執行し、自律経営予算の執行率及び一般需要費のセンター執行率を向上する。
- ・安全な学校教育、労働環境を維持するために、教員と連携し、施設・設備、備品の点検や安全管理体制のチェックを繰り返し行い、維持、更新を図る。

- ・生徒の成長を考えたバランスの良い献立を作成し、衛生管理を徹底し、美味しい給食を提供する。
- ・給食だよりの配布、全校給食や栄養士が参加する食育授業などの取組を通して、生徒の給食の喫食率を向上する。

#### <取組と自己評価>

- ・施設設備の改修工事について、特別教室の空調設備の設置工事、普通教室のリース空調設備の更新、職員室のリニューアル工事等において、教育活動を維持しながら適切に施工した。(評価A)
- ・一般需用費等の予算のセンター執行率は目標を達成できた。(評価A)
- ・生徒の給食の喫食率を向上することはできなかったが、給食だよりの配布、全校給食や栄養士が参加する食育授業などの取組を通して、食への関心を高めることができた。給食費の無償化を機会に喫食率を向上する。

## (2) 重点目標と方策・数値目標

### ①学習指導

- ・授業規律を確立し、丁寧な指導をすることで、生徒が前向きに学習に取り組む姿勢を育てる。また、ICTを活用した教育活動の推進を図る。

#### 【数値目標】

授業満足度(熱心)の向上	90%以上	(R5年度85%	R4年度95%	R3年度87%	R2年度93%)
授業は分かりやすい		(R5年度97%	R4年度92%	R3年度100%	R2年度92%)
授業出席率の向上	85%以上	(R5年度71%	R4年度76%	R3年度79%	R2年度92%)

### ②生活指導・特別活動

- ・生徒理解を深め、個々の生徒の状況を踏まえながら、学習面や生活面を指導・援助する。
- ・班活動(部活動)への参加率を向上させ、学校行事を充実させることで、生徒の定着率を高める。

#### 【数値目標】

中途退学者の減少	6名以下	(R5年度 8名	R4年度 6人	R3年度 3人	R2年度 6名)
班活動加入率の増加	60%以上	(R5年度64%	R4年度61%	R3年度52%	R2年度70%)
学校満足度の向上	90%以上	(R5年度91%	R4年度89%	R3年度91%	R2年度96%)

### ③進路指導

- ・生徒の進路意識を高め、広い視野に立った生徒一人ひとりの進路希望の実現に努める。
- ・最後まであきらめず、粘り強く自分の目標を追求させる。

#### 【数値目標】

進路決定率の向上	85%以上	(R1年度80%	R4年度80%	R3年度80%	R2年度93%)
----------	-------	----------	---------	---------	----------